

# いちめんのなのはな

令和3年1月28日(木)  
こうちょう すず き まこと  
校長 鈴木 誠

## なわとび集会・なわとび週間

- 1月21日(木)・1/21/木~2/4/木 -

体育委員会が「なわとび集会」を主催しました。体育委員長の萩原さんが「2月4日になわとび大会があります。今から体育委員がそれぞれの跳び方のコツを教えます。大会までに練習して、跳びきりましょう」と呼びかけました。そして、体育委員がそれぞれ練習した跳び方を披露しながら、その跳び方のコツを伝えました。あわせて、放送委員会が作成した跳び方を収めたビデオをお昼の放送で放映しました。

体育委員をお手本に練習する子供たち



上達を願いジャンピングボード設置 1/25

「なわとびカード」について(今年度、新調しました)

初級編(10級~1級)・・・カード1(全員配付)

↓ 初級編のすべてに合格すると中級編へ

中級編(初段~準5段)・・・カード2

↓ 中級編のすべてに合格すると上級編へ

上級編(5段~鉄人)・・・カード3

・各級(段)の合格・・・合格に必要なクリア数の達成

例 9級・・・両足跳びで1回まわして2回とび(前)を3回

” ” ” (後ろ)を3回

など8種目のうち6種目クリア達成で合格

今年は、新型コロナウイルスのための緊急事態宣言下ということで、大縄やバージャンプを行いませんが、子供たちが、粘り強く縄跳びに挑戦し、健やかな心身を育むことを願っています。

## 版画 - 5年1組 図画工作科 1月26日(火) -

5年生が図画工作科の授業で一版多色刷りの版画に取り組み始めました。題材は、自分の靴とお気に入りの組み合わせです。子供たちは、グローブ、なわとび、水筒、ラケットなどを靴と組み合わせ、力強さや美しさなどが表現できる構図を考えました。そして、下絵を描き上げました。

子供たちの思いがどのように表現されて作品となって実を結ぶかとても楽しみです。



けん玉 「できたよ」何度も何度も挑戦



## 日本の昔遊び

- 1年生 生活科 -

1年生が生活科の学習で、けん玉、だるま落としなどの昔遊びを楽しんでいます。今年は、時節柄、「昔遊びの会」や「おやゼミ」が見送りとなりました。地域の方から直接教えていただくことができずとても残念です。昔遊びを御家族の話題にさせていただけると幸いです。

## タブレットの活用

- 3年生 外国語活動 1月22日（金） -

3年生が、教室に配置された一人一台のタブレット端末を活用して外国語活動に取り組みました。

はじめに子供たちは、みんなで「star（スター・ほし形）」や「circle（サークル・円）」などの形や色の英語での言い方を学びました。次に、それを念頭に個々に様々な色の図形をタブ



作品をテレビで紹介し合う 3年1組

レット端末の画面へ入力しながら、

図形を組み合わせて絵描きを楽しみました。また、自分の作品を教室の50インチテレビにミラーリング（自分の画面をテレビの画面に表示）して紹介し合いました。ミラーリングの仕方が分かってくると、自分の作品をテレビで紹介しようと、子供たちは次々に挙手しました。

便利な一つの道具としてタブレットに接し、外国語活動を楽しむ子供たちの姿が印象的でした。



形や色の英語表現を念頭に図形を入力

## 授業研究会

- 1月21日（木） -

### ○6年2組 音楽科

十分な距離と換気が確保できる体育館で音楽科について研究授業を実施しました。子供たちは、「ふるさと」の歌詞を読み取り、自分たちの思いを込めた歌い方を考える学習に取り組みました。自分なりの表現方法をどの子も真剣に考えることができていました。こうした取り組みを通して、自分の考えや意見を大切にできる子供が育ってほしいと思います。先生たちの協議会では、旋律や作者の意図による表現方法を学びながら、子供たちが考えた表現方法も大切にする指導の進め方について研修を深めました。



真剣に表現の仕方を考え、発表し合う  
6年2組



素晴らしい合奏を披露 3年2組

### ○3年2組 音楽科

楽曲「パフ」を題材に、リズムを感じながら器楽合奏を楽しみました。合奏では、非常事態宣言以降、体育館で並び方や体の向きに気を付けながら練習してきた成果を発揮して、全員が分担の楽器を正しく自信をもって演奏しました。また、自分が考えた2拍分のリズムを積極的に発表し、それをみんなで楽しみ味わい合いました。子供たちの、演奏後の満足げな表情とリズム打ちを楽しむ姿が印象的でした。

### ○4年2組 図画工作科

「リズムにのって楽しそうに踊る動物をつくろう」を学習課題に子供たちが油粘土で作品を制作しました。

様々なダンスを思い出し、象徴的な動きを想像したり、いろいろな動物とその特徴的な動きやポーズを思い浮かべたりして発表し合ううちに、子供たちは創作意欲を高めました。子供たちは、ときおり手を止めて、先生が紹介する友達の手芸やよいところを学びながら、最後まで作品作りに集中しました。

